

特集「クラウドコンピューティングと SaaS」の発刊に寄せて

角 泰 志

日本ユニシスの ICT サービス事業は、クラウドコンピューティング事業である。

2010年現在、クラウドコンピューティングという言葉は各種メディアにもさかんに取り上げられ、各界より注目を浴びている。その理由は、企業活動に不可欠なコンピューティングパワーの獲得において、クラウドコンピューティングが初期投資を不要とし、開発リスクを低減させ、システムやネットワークの運用負荷から解放し、大幅なコスト削減が期待できるとされているからに他ならない。

我々は、クラウドコンピューティングの本質は“Share（共有）”にあると考える。多くの利用者がコンピューティングリソースを共有することによりリソースの利用効率を高め、利用コストを引き下げる。色々な利用者がいろいろな形態で利用できるようにダイナミックにリソースを用意できるようにする。クラウド内での高いセキュリティを担保して利用者同士の干渉が発生しないようにし、一方でリソースの偏りがある場合は、即座に是正しながら高いパフォーマンスとサービス品質を提供し、安心・安全なコンピューティング環境を実現する。これらを実現することがクラウドコンピューティングの技術の核心ということが出来る。

我々は、クラウドコンピューティングとして提供すべき三つのサービスがあると考えている。それは、SaaS (Software as a Service)、PaaS (Platform as a Service)、IaaS (Infrastructure as a Service) である。SaaSは、業務アプリケーションそのものをサービスとして提供し、その利用者はエンドユーザが中心となる。PaaSはSaaSアプリケーションの開発・実行環境をサービスとして提供するもので、SaaSアプリケーションの開発担当、運用担当が利用者となる。IaaSは業務アプリケーションを稼働させるインフラストラクチャをサービスとして提供し、その利用者は情報システムのインフラストラクチャの設計・構築の担当者となる。

これらのサービスとその利用者を考えると、クラウドコンピューティングは現在の業務アプリケーションの利用者であるエンドユーザから情報システム担当者まで、コンピューティングパワーを必要とするすべての人々、すべての企業が利用者となることがわかる。

日本ユニシスは2008年4月にクラウドコンピューティング事業に参入した。この2年間に実際のビジネス活動から我々が学んだことは、顧客のサービス購入の目的はサービス利用により価値を得ることであり、サービスそのものの稼働形態例えばSaaSであるのか、ASPなのか、アプリケーションのホスティングサービスなのか、どのように作られたのかについてほとんど関心はない、ということである。その意味から類推すると、顧客は最終的に業務アプリケーションを利用することが目的であり、このためクラウドコンピューティングの究極はすべての業務アプリケーションがSaaSとして提供されることなのかもしれない。

SaaSに対するビジネス面での興味は、その裾野の広さ、想定される利用者数の多さにある。ネットワークを介して業種・業態を超えて従来にない範囲での新たな利用者の出現が期待され

る。サービス単価が安くても数10万人を超える利用者が獲得できれば圧倒的な採算性を実現できる。また、マルチテナントの実現によるSaaSアプリケーションベンダ側の収益性・利便性の確保、マッシュアップ技術の発達によるサービスそのものの発展性の期待もある。当社は日本におけるSaaS市場の発展と拡大を目的とした“ビジネスパーク[®]”を開設した。ビジネスパークは、SaaS市場を形成する利用者と提供者（サービスプロバイダ）、コンテンツプロバイダ、サービスを組み合わせて提供する連携ソリューションプロバイダ、サービスインテグレータ、リセラー、広告主など、多様なステークホルダに、SaaSの利用（検索・連携・実行）と提供（開発・販売・運用）の場を供するものである。具体的には、SaaS事業を展開しようとしているプロバイダに対して、SaaSの企画・開発から販売・運用までをビジネス面、技術面で支援するものである。実際に、ビジネスパークの一号ユーザである日揮情報システム株式会社様では、設備保全管理システムである「PLANTIA for SaaS」の外販を開始したところ、全く業界の異なる医療器具メーカーに採用が決まった。前述のような市場の裾野の広がりを感じさせ、SaaS事業の将来性を予見させる成功例であると考えます。

さて、本号ではクラウドコンピューティングとSaaSについて日本ユニシスが実際にビジネスを展開する上で得た知見を特集する。多様なステークホルダに関わるビジネスと技術について述べている点をご確認いただきたい。また本号では、当社の技術者報告だけでなく、我々のクラウドコンピューティングサービスを実際にご利用頂いている日揮情報システム株式会社様と国立情報学研究所様よりご寄稿を頂いた。クラウドコンピューティングについて“絵空事”、“まだ先のこと”と思われる方々に是非お読み頂きたい。当社のクラウドコンピューティング事業が着実にそして確実に拡大し、様々なお客様の多種多様なニーズに対応している状況をご理解頂けるものと考えます。

今後の日本ユニシスのクラウドコンピューティング事業にぜひご期待を頂きたい。

(常務執行役員 ICT サービス部門長 兼 ICT サービス本部長)